

第45回やまぐち眼科フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育事業（認定番号：16861）

【日時】 2026年7月9日（木）18：00～20：00

【場所】 KDDI 維新ホール
山口県山口市小郡令和1丁目1番1号
TEL：083-902-6727

【会費】 3,000 円

プログラム

18：00～19：00

特別講演1．緑内障長期データからみえてくるもの

座長： 山口県眼科医会
会長

鈴木 克佳 先生

演者： 岐阜大学医学部附属病院 眼科
臨床准教授

澤田 明 先生

19：00～20：00

特別講演2．網膜色素変性に関する最近のトピックス

座長： 山口大学大学院医学系研究科 眼科学
教授

木村 和博 先生

演者： 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 眼科学分野
教授

池田 康博 先生

※会場にてお弁当をご用意しております

共催 / 山口県眼科医会 わかもと製薬(株)

特別講演 1. 緑内障長期データからみえてくるもの



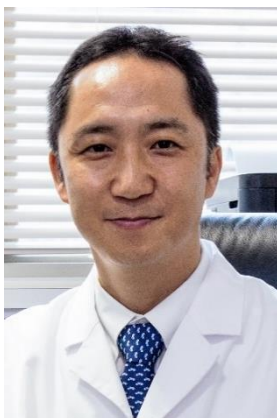
澤田 明 先生 ご略歴

1992 年 岐阜大学医学部卒業
1992 年 岐阜大学医学部眼科学教室入局
1996 年 岐阜大学医学部 助手
1997 年-1999 年 米国ワシントン大学 研究員
2001 年 岐阜大学医学部 講師
2017 年 岐阜大学医学部 臨床准教授
現在に至る

緑内障管理は、眼圧測定値、視野障害の程度、視神経障害(視神経乳頭陥凹ならびに網膜神経線維層欠損)の程度の大きく 3 つの側面に基づいて総合的に判断される。普段の日常診療においては、これらを短時間で判断し、このまま経過観察でよいものか、それとも薬物投与/追加、あるいは手術療法が必要なのかといった様々な選択をそれぞれの患者で迫られることとなる。しかしながら、緑内障進行は個人個人でバラツキがあり、治療選択を即座に判断することは至難の業である。

本講演では、岐阜大学における長期データを基に、演者が何に留意しながら緑内障日常診療にあたっているかということを中心にお話ししてみたい。

特別講演 2. 網膜色素変性に関する最近のトピックス



池田 康博 先生 ご略歴

1995 年 九州大学医学部卒業
1995 年 九州大学医学部眼科入局
2003 年 九州大学大学院医学系研究科博士課程修了
2004 年 九州大学病院眼科 助手 (現、助教)
2015 年 九州大学病院眼科 講師
2016 年 九州大学大学院医学研究院眼病態イメージング講座
(寄附講座) 准教授
2018 年 九州大学大学院医学研究院眼科学 准教授
2019 年 宮崎大学医学部眼科学 教授
現在に至る

網膜色素変性は未だ有効な治療が確立されていない難病で、早期の治療法開発が望まれている。近年、少しずつではあるが新しい知見が発信されるようになっており、患者のみならず我々眼科医にとっても明るい兆しであろう。

本講演では、①診療ガイドラインの改訂、②ゲノム医療の日常臨床への導入、③視細胞保護遺伝子治療の現状と未来、という 3 つの話題を中心に網膜色素変性に関する最近のトピックスを紹介したい。